声優に
なれなかった本

cinnamonwan

はじめに

先日、とある声優インタビュー誌を読んでいて、ふと思った。

「この人達は読者に夢を与えすぎてないか？」と。

内容はとても夢の溢れたもので、とても輝いて見えた。ファンとして応援したくなる。

だが、これを声優を目指している若い人が読むと、過度な希望を与えることになる気がする。
簡単に要約すれば「あきらめなければ夢は叶う！」という内容だった。

これは、かつて声優を目指していた私から言わせてみれば、言葉が足りないように感じる。
私が、より正確に言い換えるならば、

「声優になるためなら、すべての時間をそのためだけに使い、バイトしながら何年でもやる覚悟があり、アニメ声優に限らず、声の仕事ならなんでもするし、それで食べていけなくても構わないのなら、あきらめなければ、夢は叶う！かもしれない。」といったところだろうか。

かくいう私も「あきらめなければ夢は叶う！」という甘い言葉に惑わされ、根拠のない自信を持ち、大した覚悟もなく、声優を目指していた。

声優として第一線で活躍している人達のインタビューは一般雑誌で多数読むことができるが、どれも勝者だから言えることだ。また大抵の声優は事務所に所属しているため言えることに限界がある。

この本では、声優になることをあきらめた私が、敗者の視点から見た業界の入り口を伝えて、
これから声優を目指す人へ別の角度から夢を考える機会になればと思っている。(本音を言えばあきらめるきっかけにして欲しいのだが…)

最初に断っておくが、私は本気で声優を目指している人から比べれば、
かなり早い段階で挫折していると思う。
それが今となっては良かったと思ってもいるが。

略歴としては、

高校２年～３年の頃
自宅で自主練習のみ。

大学１年の頃
自主練習とアナウンス学校のアナウンス講座（計１０回くらい）

大学２年の頃
声優の専門学校で週１回のコースを１年間で挫折

というようなレベルなので、すでに養成所に入って、本気で目指している人にとっては、とるに足らない内容かと思う。

声優＝芸能人

例えば友人が急に「芸能人になりたい」と言いだしたら、あなたはどう思うだろうか？
私なら「なにをバカなことを」と思うし、冗談だろうと思う。

しかし「声優になりたい」と聞くと、
専門学校もいっぱいあるし、
芸能人よりはハードルが低いように感じられる。
けれど少し考えて欲しい。
アニメが好きで声優を目指している方ならアニメのエンディングで、
スタッフロールに目がいくだろう。
だいたいのキャストが知っている声優ではないだろうか？

アニメの場合、人気声優を多く起用すれば、より人気も出る可能性が高いため、
有名声優が１クールごとに、いくつも掛け持ちで出演している。

また洋画の吹き替えでは、作品が違っても同じ俳優が出演していれば、
その俳優を吹き替えた声優がそのまま起用されることも多い。

つまり、声優志望者は増えているのに、声優を必要としている仕事は増えていない。
すでに飽和状態で、そういった陽のあたる場所で活躍して、
声優のみで食べていける人はほんの一握りなのだ。

もちろん声優の仕事はアニメ、洋画の吹き替えだけではない。
演劇、ナレーション、ラジオＤＪ、イベントの司会進行、
事務所によっては結婚式や企業の披露宴などの仕事もある。

本気で声優を目指すなら、声に関する仕事はなんでもしたいし、
それで食べていけないようなら、バイトと掛け持ちするくらいの覚悟が必要だろう。

私が某声優事務所直轄の養成所で聞いた話。
その養成所は各地にいくつも養成所を持ち、

いくつかのコースに分かれていて、数百人の受講生を抱えている。
それらの受講生はみんな入所オーディションを突破しているし、
その中でも年に一度ランクアップのオーディションがあり、
数年同じクラスに留まるとクビという過酷なサバイバル競争をしている。
その中で１年に事務所所属が叶うのは１～２人だそうだ。

大手プロダクション直轄の養成所でもそれほどの狭き門である。
声優を目指すことは芸能人を目指すことと同じ意味だということは理解しておく必要がある。

動機

まず、声優を目指す前に、自分が声優を目指そうと思った動機がホンモノかどうかを考える必要がある。
それによって目指す方向や難易度が大きく変わってくる。

私が声優を目指そうと思ったのは高校生の時、
アニメが好きで、声優の川上とも子さんのラジオを聞いていて、
「この人のように自由に自分を表現できるようになりたい。」と思ったのがきっかけだった。

当時の私は声が小さいことや、あがり性、引っ込み思案な自分にコンプレックスを抱き、悩んでいた。
このコンプレックスを克服するためには、並大抵のことでは効果がないと思い、
あえて、声を使い、人前で表現することを仕事とする声優を目指すことで克服しようと考えた。
我ながら、突飛な考えだと思う。

しかし、これは表向きの理由。
本当のところは受験勉強からの逃避である。
高校の授業についていけなくなり、受験勉強をあきらめる口実に夢を利用したのだと思う。

受験からの逃避。こんな動機では問題外だが、皆さんはどうだろうか？
たとえば、「アニメが好きだからアニメ声優になりたい！」
これが一番の理由だという人がいたら、よほど根性がない限りは難しいだろう。
なぜなら、声優はアニメや洋画の吹き替えに限らずナレーションやイベントの司会など多岐に亘る。
声優になるだけでも大変狭き門をくぐらなくてはならないのに
さらにアニメ声優と絞ってしまうと、みずから、門を狭めてしまう。
業界へのコネでもない限りは絞らない方が良い。

また、「アニメが好き」という動機の人は、演技の経験がまったくないことが多いため、より時間がかかる。
もし、現在学生の方で、アニメが好きという理由だけが動機という人がいたら、

ひとまず学校の演劇部に入部して、演技の経験を少しでもしていくことをお勧めする。

「始めはみんな素人だった」
私はこの言葉に根拠のない自信を持ち、曲解して努力を怠った。

生まれた瞬間は確かにみんな素人だ。
（厳密に言えば現役声優の子供として生まれれば、業界へのコネや、才能の点で平等ではないが）

しかし声優の専門学校に入る段階だと、「ただのアニメ好き」はかなりマイナスからのスタートになる。
例えば、小さな頃から児童劇団に所属していたり、中学、高校と、ずっと演劇部だった人と並んだとき、
明らかに実力の差が出てしまう。そんなアドバンテージを持っている人を相手に
何もしていない人間が勝てるわけがない。

声優を目指そうと思った瞬間から、できる努力はしておくべきである。

本格的に目指す前に

前述したように、もし学校の演劇部や、小劇団等に所属できるのであれば、入っておいて損はないだろう。

それができる環境にない場合でも最低限の努力はしておいてほうが良い。

演技練習となると個人ではなかなか難しいので、
とりあえず基礎体力をつけておこう。

私は、毎朝早く起きて河川敷までランニングして、腹筋、背筋を続けていた。
また、ボイストレーニングの本で発声、滑舌練習。
せめて外郎売くらいはそらで言えるくらいにはしておきたい。

私の場合は専門学校以前の問題で声に自信がなかったので、
アナウンス専門学校が行っていたアナウンス講座も少し受講していた。

その程度の努力で素人がどうにかなるわけもなかったのだが。。。

習い事専門雑誌なんかに、アナウンス講座や、ボイストレーニングなどの学校の情報は
多くあるので、そこで基礎を学んでおくというのも手だろうと思う。

もちろん、そういう努力をすれば、声優になれるわけじゃない。可能性が気持ち上がるかもしれない。けどまったく無駄な努力かもしれない。下手な独学は逆に良くないかもしれない。
これこれこういうことをしたから、必ずなれるというようなわかりやすい仕事ではない。
筋トレして基礎体力をつけるという程度ならマイナスにはならないだろうが、
そんなことで声優になれるのなら私もなれていたわけだから。

入所オーディション

声優になる方法は色々あると思う。

別に養成所に入らなくても、
自信があるなら直接プロダクションの面接を受けたり、
デモテープを送りつけても良い。

業界にコネがないのであれば、養成所という選択になる。
ただしそこは誰もが考える一般に開かれた道であるから、
より厳しいことは覚悟しなければならない。

私は最初、大手プロダクション直轄の養成所に入所するためのオーディションを２つ受けた。
もちろんどちらも落選なのだが、私のようなコンプレックスがなければ素人でも
受かる可能性はあると思う。基本的には大声でハキハキ喋ることができれば良いと思う。
それなりの実力があるなら、オーディションありの大手プロダクション直轄養成所に通った方が良い。

ここで話が少しそれるが、そのオーディションでの体験談をひとつ。
その大手養成塾（あえて塾と書かせてもらう）では受験料を取って、
かなり大掛かりなオーディションを行っていた。
オーディション内容はいくつかの短い演技をして、
その後ちょっとした質疑応答だった。

私はしどろもどろになりながらの散々な内容だったが、
最後に塾長が口を挟んだ。
「君は〇〇さんの親戚とかじゃないよね？」
〇〇さんというのは大御所声優の名前だ。
私の苗字は少し珍しく、その大御所声優と同じだった。

…つまりそういうことである。

業界にコネがあれば実力が伴わなくても合格できるということ。
だから、もし学校の演劇部の顧問が有名な人で芸能界と通じてるとか、
劇団の座長が芸能関係にパイプがあるようなら、
そもそも養成所に入る必要もないだろう。

結局、私は入所にオーディションが必要な養成所をあきらめ、
お金を払えば誰でも入学できる大手専門学校に大学に行きながらの、
週１回夜間コースに１年間通うこととなった。

養成所にて

入所した当初は、入ったことに満足して、ただ授業に出席しているだけだった。
お金を払っただけでだれでも入所できる養成所であるせいか、
皆のやる気もまちまちだったので、それに流されていた感がある。

でも、結構な金額を払ってるわけだから、がんばらないと！と奮起し、
途中からではあるが、アフレコ練習などでは積極的にセリフの多いキャラや主役に立候補し努力した。
が、成果がなかなか上がってこなかった。

確かに最初の頃から比べれば、断然がんばっていたが、
命を賭けるような本気ではなかったと思う。
もしくは本気でありながら、どこか習い事感覚だったのかもしれない。

養成所の先生は良い部分があると褒めてくれるのだが、
やはり、自分でわかる。
明らかに声優どうこういえるレベルではないことを。

そもそも大学在学中に芽が出なければあきらめるという気持ちでいた。

いくつか大手プロダクション直轄の養成所の授業風景を見学していた時、
生徒達が先生に必死にアピールしているのを見て、
「私にはここの人たちの中で頭一つ抜ける自信がない」と感じていた。

それでも、声優を目指していたおかげで、
本来なら消極的な私も、
「声優を目指しているなら、これくらいクリアしなくては！」
と、物事に積極的に取り組めていたのは事実だ。

あいかわらず、声は小さいし、あがり性ではあるけれど、
声優を目指したことで、一定の成果はあげられたと思う。

だから、ここで私は声優という夢に挫折し、あきらめた。

敗因

なぜ声優になれなかったか？

理由はいくつもある。

そもそもの発端から、苦手克服を目的にしているので、目標点が低い。

ちょっとオーディションに落ちたくらいで、凹んでしまう程度の覚悟。

養成所でよく言われたのは「自信を持て！」とか演技以前の問題だった。
最後に通知表のようなものがもらえたのだが、
評価されたのは努力値だけで、他は平均以下。

自己分析するに、
自信がないため、演技のすべてに振り切ったものがなく、
緊張して声が小さくなるのを抑制するのが精一杯。
そのため演技幅も小さく、一番テンションの高い演技と
一番テンションの低い演技しかできず、
中間で、細かな演技をするほどの能力がなかった。
そしてその程度のところで壁にぶつかっている時点で才能がない。

本気で目指している人に比べれば相手にもならない。
声優を目指す以上、演技が好きで、
演技を仕事にできるんなら、どんなことでもするし、
何年かかろうが関係ないという気持ちをどれだけ継続することができるかだろう。
それでもほとんどの人は事務所所属すら叶わないし、
たとえなれたとしても、９割以上が食べていくことができない。
５０歳を過ぎてもバイトと掛け持ちしている声優もいる。
一般の人に認知されるくらいよほどの売れっ子でもない限りローンも組めない。

芸能関係の仕事の多くは、一般人が目指すにはリスクが高すぎる。

まともな生活を送れなくても、声の仕事をしていければそれだけで幸せだという人。
それくらい本気の人じゃないとやっていくことは難しい。

おわりに

声優を目指すことは、かなりリスクが高い。

私の職場に、声優の専門学校に入るためにバイトして、お金を貯めているという同僚がいる。

その人は、よくよく聞いてみると、全日制の声優専門学校に入るつもりらしい。
まだ若いとはいえ、高校は卒業して、アルバイトとはいえ社会人として働いているのにだ。
学校に通えば必ずなれるわけでもない。むしろなれる人の方が少ないのに、
社会人になってから全日制に通うつもりらしい。
しかも、今、声優になるための努力は特にしていないという。

これはとんでもなくリスクが高い。
声優になれなかった場合、履歴書に大きな傷がつく。
履歴書に残る学歴になってしまう。
一旦社会人になった後に、
声優の専門学校を出て一般企業に就職するとなると、
かなり言い訳が難しい。
また、もう一度目指すんじゃないか？と思われたり、
少なくとも、あきらめたことがプラスの評価にはなりづらい。
採用担当によっては、仕事と関係のない専門学校は、
「普通の学校を出たあと、モラトリアムを引き伸ばして遊んでました。」というふうに取られかねない。
ある会社の人事部の採用担当に聞いたことがあるが、
社会人になってからの空白期間がある履歴書は、基本的に書類選考で落とすそうだ。

夜間コースや土日コースなど、働きながら通える養成所も多い。
夢を目指すのは悪いことではないが、人生はやり直しがなかなか利かない。
ダメだった場合も想定しておくべきである。

また、専門学校時の同期に、たくさんの声優専門学校を何年も転々としている人がいた。
怪しい事務所に所属して、登録料だけ払わされて、
１年間で受けた仕事はよくわからない映画のセリフもないエキストラだけという人もいた。
そして同期に、声優になれた人は一人もいない。

クリエイティブな業界は外からは華やかに見えるが、中身は決して華やかなだけではない。

知り合いに昔ゲーム会社でゲームを創っていた人がいるが、
開発費もほぼ使い切った後に、声優をキャスティングされてきたそうで、
この声優達はどれだけ安く使われたんだろうと話していた。

売れるまでは地獄なのは、役者も芸人も声優も変わらない。
第一線で活躍している声優の下には多くの屍が積み重なっている。
１年間で専門学校や養成所にいる人は約１万人と言われている。
もちろん、すでに入所していて２年目３年目という人もいるから、
毎年１万人も志望者が増えているわけではないが、
各学校に一人くらいはとんでもない才能の人がいたりする。
その上、有名劇団の劇団員から声優になる人等、
別ルートからもたくさんのライバルが狙っている。
そして血のにじむような努力をして事務所に所属が決まったとして、
ほとんどの人は食べていけなくて、不規則なバイトを掛け持つことになる。
並大抵の覚悟じゃ足りない。
50歳を過ぎてもバイトと掛け持ちしていく覚悟があるだろうか。
声優、俳優等の表現者を目指す人間はそういう覚悟を持っている必要がある。
表現者を目指すということは経済的充実より、人前で表現することで得られる精神的充実を優先するということである。
努力と才能と運のすべてが揃った上で手にする名誉は、
他の一般的な努力で手に入る幸せと比べてどの程度の価値があるのか。

もちろんやってみなきゃわからないこともあるが、
人生はやり直しが利かない。
あきらめることは負けではない。
自分としっかり対峙して、見切りをつけなきゃいけないこともある。
それだけ賭けるに値する夢なのか、もう一度考えてみて欲しい。

声優になれなかった本

http://p.booklog.jp/book/58311

著者：cinnamonwan
著者プロフィール：http://p.booklog.jp/users/cinnamonwan/profile

感想はこちらのコメントへ
http://p.booklog.jp/book/58311

ブクログ本棚へ入れる
http://booklog.jp/item/3/58311

電子書籍プラットフォーム：ブクログのパブー（http://p.booklog.jp/）
運営会社：株式会社ブクログ